

[N 2020 PLAN]

10年後の大学の姿を描くことから

大学教育は、今、少子化とグローバル化、そして情報化という社会の大きな流れを受け、抜本的な改革を迫られている。来年、創立135周年を迎える二松學舎大学では、平成17年、「21世紀の二松學舎像を策定するマスタープラン」を制定、改革に努めてきた。本年9月、理事長に就任した水戸英則氏に今後の方針について聞く。



学校法人 二松學舎
理事長

水戸 英則

みと・ひでのり/昭和44年
九大経済学部卒業。同年4
月日本銀行入行。同行青森
支店長、審査局参事考査役
などを歴任。その後肥後銀行
常務取締役役に転じ、熊本学園
大学非常勤講師兼務などを経て、平成16年学校法人二松
學舎に事務局次長として迎え
られ、平成17年学校法人二
松學舎常任理事、平成23年
9月同理事長に就任。日本私
立大学協会評議員。

ステークホルダーの 意見を取り入れ、 長期ビジョン策定へ

平成17年に策定されたマスタープランの柱は6つ。
①大学の教育・研究活動の推進、②両附属高校の教育の見直し、③人口・出口対策、広報活動、④キャンパス整備、⑤人員計画と適切な人事の推進、組織の効率化、⑥財務改革、その他であった。プランの始動から五年が経過した今、4番目のキャンパス整備については平成21年に九段キャンパス3号館が完成し、1号館についても急速に進む社会の情報化に対応した改修が進められている。

「平成25年度から、すべてのキャンパス機能を九段に集約する予定で準備を進めています。やはり、都心中

の都心、皇居や靖国神社など水と緑の環境に囲まれ、官庁や企業、市民などと交流がしやすく、アクセスが良い立地は大学にとって極めて魅力的です」と水戸理事長。

1番目の大学の教育・研究活動の推進、2番目の両附属高校の教育の見直し、3番目の人口・出口対策についても、毎月、法人・教育の合同会議を開き、進捗状況をチェックしてきた。

「各課題の取り組みを進めているのはわかるのですが、もともとの目的であった『21世紀の二松學舎像』というものが、どうも明確に浮かんで来ない感がありました。そこで、いったい本学はどういう大学になっていったらいいのか、学生から保護者、教職員、卒業生、取引先に至るまで、本学の

の都心、皇居や靖国神社など水と緑の環境に囲まれ、官庁や企業、市民などと交流がしやすく、アクセスが良い立地は大学にとって極めて魅力的です」と水戸理事長。

「本学は伝統的に国語の教員を数多く輩出して来ましたが、今後は、毎年、何人くらい教員試験に合格するような大学にするのか、10年後にはどのくらい合格者を出せるのか、など目標がはっきりすれば、アクションプランも立てやすくなります」（水戸理事長）

意見は項目ごとにまとめ、来年の135周年記念式典で発表する予定だという。

**建学の精神に立ち返り
東アジアを視野に
入れたグローバル化を**

水戸理事長は、略歴にも記載されているとおり、長年、金融界を歩んできた人だけに、大学改革の遂行策も企業が経営計画策定の際に一般的に行う目標設定とその進捗管理・PDCA方

式を取り入れるなどユニークだ。しかも、二松學舎を愛する心についても人後に落ちない。改革が急務なのは、出口対策ばかりでなく、グローバル化や情報化に対応した教育課程についても同様である。

「本学の創立者三島中洲は、当時の西洋偏重主義に抗し、東洋の精神文化を学び、日本人の本来の姿、道徳を知ることが大切だと、漢学塾・二松學舎を起こしました。今、グローバル化と言えば、まず、人が思い浮かべるのは欧米ではないでしょうか。しかし、私は、これからの時代に経済、そして文化の覇権を握るのは、中国や韓国、インドといったアジアの国々だと思えます。つまり、今こそ、建学の精神に立ち返り、東洋に学ぶべきだと言いたいのです」（水戸理事長）

二松學舎大学には、文学部と国際政治経済学部との2学部がある。文学部には、

国文学科と中国文学科があり、中国文学科は中国に關しての思想、歴史、文学、語学の専門家を、また、国際政治経済学部には、経済・政治・法律・語学の専門家を多数擁している。これらを相互に活用することで、アジアを視野に入れた学問のグローバル化ができないかというのだ。「これこそ、本学の独自性を発揮したグローバル化だと思います。そのほか、国文学科についても、古典は勿論重要ですが、情報化社会に対応した『知』の組み換えができないかと考えています。気合をそろえて諸課題に対し逃げずにこれを克服することに挑戦していくつもりです」（水戸理事長）

今後、二松學舎大学がどう変わっていくかが楽しみです。



都心の一等地に建つ九段キャンパス1号館(千代田区三番町)